

まちのわだい

Town Topics

さつまいもづくりで地域交流

さつまいも定植大会 6月14日

5月に50万本のポピーを咲かせた鬼怒フラワーライン（鬼怒川大形橋上流左岸河川敷）で、花と一万人の会が主催する「さつまいも定植大会」が行われました。

花万ジュニアスタッフや青龍楽校少年団、市内小学生の親子など約100人が参加。約5,000平方メートルの花畑だった場所に約1,500本のさつまいもの苗を植えました。

今回植えた苗は、食味がよく甘味が強い「ベニアズマ」と、紫芋の「パープルスイートロード」の2種類。育てられたさつまいもは、毎年10月に行われるポピーの種まきの際に掘り起こして試食し、紫芋は加工されてポピー大福になる予定です。

定植大会への参加が昨年に続いて2回目となった花万ジュニアスタッフの増田萌那さん（小学6年）は「初めて定植を行ったときよりスムーズにできた。みんなでわいわい楽しく植えることができよかったです」と笑顔でした。



一つ一つ丁寧にさつまいもの苗を植える参加者

ハナショウブ眺め 優雅な一服

あやめ茶会 6月7日

白や紫などの花卉をつけた優雅なハナショウブが見頃を迎えた砂沼広域公園・観桜苑の砂沼庵で、恒例の「あやめ茶会」が開かれました。

市茶道連盟香水出会が主催する茶会では、本格的な抹茶と、鮎やあやめをあしらった季節の和菓子がもてなされ、市内外から訪れた124人が作法や服装を気にすることなく、香り高い一椀のお茶とハナショウブを楽しみました。

つくば市から夫婦で訪れた30代の男性は「かしまった感じで少し緊張したが、お茶もお菓子もおいしかった。普段もお茶ができるのなら、また来たい」と話が聞けました。



作法を教わりながら抹茶を楽しむ参加者



新鮮なメロンとすいかを試食する来場者

下妻の旬のおいしさを堪能

メロンすいか祭 6月14日

下妻で栽培されている「すいか」は、6月が旬。夏を目前にして出荷の最盛期を迎えます。茨城県の青果物銘柄推進産地の指定を受け、市場から品質・味ともに高い評価を受けている下妻の「すいか」と、甘さや大きさ、口当たりの良さと三拍子揃った品質のタカミメロンの旬が重なります。

JA常総ひかりは6月13、14、20、21日の4日間、市内大園木のやすらぎの里しもつま・農産物千代川直売所で「メロンすいか祭り」を開き、下妻産フルーツのPRと消費拡大を目指しました。

常総市から訪れた野本登美子さん（60代）からは「下妻のメロンとすいかは甘みがあっておいしいから毎年買っている。メロンの産地である北海道にいる娘にわざわざ送るほど」と話が聞けました。

スポーツで交流 みんないきいき

ねんりんスポーツ下妻大会 6月20日

高齢者に適したスポーツを通して健康の保持増進と地域間交流を図る「ねんりんスポーツ下妻大会2015」が、ほっとランド・きぬの多目的広場・芝生広場と鎌庭地区ゲートボール場の2会場で行われました。市内の老人クラブから総勢174名が参加しました。

梅雨の晴れ間に、3種目で熱戦が繰りひろげられた今大会では、「グラウンドゴルフ」は大宝西いきいきクラブの栗原平太郎さん、「輪投げ」は村岡大和会チーム、「ゲートボール」は鎌庭チームがそれぞれ優勝カップを手に入れました。

輪投げで2年連続の優勝となった村岡大和会チームの鈴木カツヨさんは「優勝はやっぱりうれしい。日頃の努力のたまものです」と笑顔でした。



一投に集中する輪投げの選手

はつけよい小学生力士が熱戦

第5回わんぱく相撲下妻場所 6月13日

下妻青年会議所が主催する「わんぱく相撲下妻場所」が、大宝八幡宮の相撲場で開かれました。下妻市や八千代町近隣を中心に、千葉県や栃木県からも参加があり、小学1～6年生の男子61人が出場。白熱した取り組みで周囲の声援も熱を帯びていました。

土俵に上がった子どもたちは、「はつけよい」の掛け声に合わせて体をぶつけ合い、真剣な表情で相撲をとりました。6月13～15日に同相撲場で合同合宿稽古を行った高砂部屋と錦戸部屋の力士たちとの交流もありました。

大宝八幡宮奉納相撲保存会の入江昭一会長は「ここは両国国技館と同じ土俵を作っている。思い切って相撲を取ってもらいたい。この機会に子どもたちが相撲を好きになって、地元からプロの力士が出たらうれしい」と話し、子どもたちの取り組みを見入っていました。



真剣な表情で勝負に臨む小学生力士

東京の子どもたちと農業体験交流

都市農村交流農業体験ツアー 5月30～31日

下妻街道やアンテナショップの運営で縁のあった東京都足立区で、自治会同士の地域交流を模索する伊興南町内会の家族連れなど約40人が、1泊2日の都市農村交流農業体験ツアーで本市を訪れました。地元のガールスカウト茨城県第42団の団員など約30人と交流を深めました。

初日は、市内今泉で田植えを体験。ビアパークしもつまに移動して夕食のカレー作り、キャンプファイヤーでは皆で歌ったり、踊ったりして盛り上がりました。

二日目は、トマト農場の見学、ハナショウブが見頃の砂沼広域公園を散策した後、砂沼で釣り舟のクルージングを楽しみました。

友達と一緒にツアーに参加した角田天晴さん（10）は「魚がはねているところが見れてうれしい。暑かったけど楽しかった。また来て（舟に）乗りたい」と満面の笑顔でした。



10隻が連なる和舟で砂沼を遊覧する参加者



百姓倶楽部の石島さんの指導で田植え体験する子どもたち